

「我が国における牛海綿状脳症（BSE）の現状について」の変更点

平成 20 年 7 月 31 日に公表した、「我が国における牛海綿状脳症（BSE）の現状に関する食品安全委員会委員長談話」の別添の 7 枚目を以下に変更する。

(変更前)

**3. 食品安全委員会で実施した評価のポイント
(2005年5月)**

○飼料規制、SRM除去などのBSE対策が実施された結果、BSE検査について、全頭検査を継続した場合も、21ヶ月齢以上の牛のみの検査に変更した場合も、リスクはどちらも「無視できる」～「非常に低い」と推定されています。

BSE検査月齢の見直しによるリスクの比較結果

	全頭を検査した場合の リスク	21ヵ月齢以上のみ 検査した場合のリスク
牛のBSEプリオン蓄積度	無視できる～非常に低い	無視できる～非常に低い
食肉の汚染度	無視できる～非常に低い	無視できる～非常に低い

注)2003年7月1日以降に生まれた20ヶ月齢以下の牛について比較



(変更後)

**3. 食品安全委員会で実施した評価のポイント
(2005年5月)**

○飼料規制、SRM除去などのBSE対策が実施された結果、BSE検査について、全頭検査を継続した場合も、21ヶ月齢以上の牛のみの検査に変更した場合も、**食肉**のリスクはどちらも「無視できる」～「非常に低い」と推定されています。

生体牛のリスクについて評価

BSE検査月齢の見直しによるリスクの比較結果

	全頭を検査した場合の リスク	21ヵ月齢以上のみ 検査した場合のリスク
食肉の汚染度	無視できる～非常に低い	無視できる～非常に低い

追加

1行削除

1行削除